

平成 2 5 年度外部評価議事録

議 事 概 要	
会議の名称	平成 2 5 年度行政評価（外部評価） ※デイサービス事業
開催日時	平成 2 5 年 9 月 2 7 日（金）午後 3 時 1 5 分から午後 4 時 3 0 分まで
開催場所	福祉の家 2 階 集会室
出席者氏名	委員（会長） 和泉 潤 委員 中島 美幸 委員 杉山 知子 委員 小川 辰男 委員 杉本 孝司 委員 太田 孝夫 委員 中村 佐仔子 委員 佐藤 長男 担当課 福祉部長 山下 幸信 福祉部次長 中西 直起 長寿課長 水野 敬久 長寿課いきいき長寿係長 北川 考志 事務局 行政経営部長 松井 豊明 行政経営部次長 三浦 肇 経営管理課長 高木 昭信 経営管理課課長補佐 飯島 淳 経営管理課主事 加藤 優作
傍聴者人数	8 人
会議の公開・非公開	公開
審議の概要	デイサービス事業について
問 合 先	長久手市行政経営部経営管理課 0 5 6 1 - 5 6 - 0 6 0 0
備 考	

担当課	<平成 2 5 年度長久手市行政評価（外部評価）資料に沿って説明> デイサービスは、介護保険認定者が対象か。それ以外か。 介護保険制度の中で認定者に対するサービスが他にあり、本事業は市の独自サービスとして自立とされた人にデイサービスをしている。 570 円が自己負担額か。
委員	
担当課	
委員	

担当課

週 1 回で 570 円。他に食事とおやつ代として実費 600 円。市は 5,770 円と人件費分を負担している。

委員

平成 12 年に介護保険制度が始まった。自立とされた人への受け皿としてデイサービスとホームヘルパーを市の独自サービスとして始めた。

65 歳以上の独居と 75 歳以上の夫婦が対象ということは、その年齢以下でも食事がつくれないから食事ができないという人がいるのではないか。

独居とかにしばられると食事がとれない、本当はデイサービスを受けたいという人が受けれない。対象の条件を緩和してはどうか。

担当課

地域包括支援センターの職員、ケアマネージャーは何人いるのか。

条件の緩和についてはご意見として一度検討したい。

ただ、高齢者福祉事業は、おおむね 65 歳以上の一人暮らしの方、75 歳以上の夫婦世帯を対象としており、デイサービスだけ緩和するのは難しいかもしれない。

地域包括支援センターは 2 か所で職員は 9 人。ケアマネージャーは 6 か所で 20 人ほど。

委員

地域包括支援センター職員やケアマネージャーの声かけで利用されたことがあるか。

担当課

平成 24 年度の利用者 3 人は包括支援センター職員から案内した。

平成 24 年度の介護保険認定審査は 1,027 人が審査を受け 16 人が非該当だった。この 16 人全てに案内はできていないが直接声かけをしていきたい。

委員

そうでないと 3 人だけの事業になってしまう。それではもったいない。

委員

16 人が対象で 3 人ということか。

担当課

その 3 人は平成 24 年度以前から利用している。16 人のうちの 3 人というわけではない。

委員

では利用対象者は何人か。

担当課

65 歳以上の独居は平成 24 年度で 1,300 人ほど。施設入所等を除くと 800 人ほどになる。75 歳以上の夫婦だけの世帯は 270 世帯ほどと

	把握している。
会長	それだけの人数の多い中で 3 人は少ない。理由は何か。
委員	その少ない人数は事業を始めた平成 12 年から横ばいなのか。
担当課	平成 15 年度くらいから 3 人が続いて、平成 19、20 年度は 1 人、平成 21 年度は 0、平成 22、23 年度は 1 人、そして平成 24 年度が 3 人。
委員	父がデイサービスを利用していた。最初の施設は子ども扱いをされ、次にいったところは居心地がいいと言っていた。人数が少ないのは人気がないということか。施設に魅力があれば人は集まる。
担当課	集まるメンバー同士が合致するかとか送迎時間が長いとかいろいろな要素がある。検証はしているのか。 確かにその人に合ったサービス内容をというのはある。ただ、市で独自サービスでデイサービスが利用できるのは社会福祉協議会のみであり、ニーズが出てれば複数の施設でできるが今は難しい。 現在の利用者は、介護保険サービスとして 15 人、ここに独自サービスの 3 人が入り、ほぼ同じメニューで過ごしている。要介護の人と一緒に早いという声もあるが、要介護の人の中に友達がおりに楽しいと言っている人もいる。
委員	市の独自サービスはいいことだと思う。だが利用者の人数を考えると潜在的利用者のニーズに応えられていない。
担当課	利用者のニーズに合わせるということでは、要介護者と自立者は一緒に体操をするが、要介護者は座ったままで自立者は立って行うし、創作活動では少し難しいことをしてもらうなど工夫して取り組んでいる。 現在の定員は、要介護者 15 人、自立者 5 人が週 4 回で 1 日最大 20 人。事業所のなかで工夫することを考えたい。
委員	デイサービスに友達がいれば続くが気に食わないことがあれば続かない。 利用者の 15 人の人はどんな状況か。近隣市はどうしているか、参考に見学でもしたらどうか。
担当課	平成 27 年度以降の介護保険事業計画の中でニーズ調査をするので、その中で把握したい。

委員	<p>近隣では、瀬戸市と豊明市は本市と同じようなかたちをとっており、日進市と尾張旭市は地域でのサロン活動をしている。</p> <p>市では別に、老人憩の家、集会所で2か月に1回、いきいきクラブとしてお風呂はないが創作活動や体操をしている。</p> <p>本事業はデイサービスでなければ駄目という人のため継続したい。行政評価票を見ると利用者を10人に増やしたいということか。増やす方法として周知方法を検討するということか。</p>
担当課	<p>目標値を10人としている。これは、高齢者福祉計画、介護保険計画で定める目標である。</p>
委員	<p>平成25年度予算は平成24年度決算より額が低い。</p>
担当課	<p>平成25年度予算は平成24年度予算と同額とした。</p>
委員	<p>そもそもこの事業は本当に必要なのか。大半は介護保険で認定される。認定されなかった自立者が本当に利用したいのだろうか。希望者はゼロに近いのではないか。</p>
担当課	<p>確かに大半は元気な人だと思う。しかし、自立とされた16人が使えるサービスが少数でも必要だと思っている。</p>
委員	<p>数字だけ見れば少ないのは分かると思う。利用者には、その人たちに会ってやっぱり必要かどうか聞くのか。また必要だという声はあるのか。</p>
担当課	<p>デイサービスの申請をするときは包括支援センターの職員が面談して介護調査をしている。本当に元気な人がいるわけではない。</p> <p>送迎がないと外に出れない人もいると聞いている。ただ、自分たちが直接会っての確認はできていない。</p>
委員	<p>近隣市の利用実績はどうか。</p>
担当課	<p>豊明市は、「いきいきサービス事業」ということで10人ほど、瀬戸市も10人ほどと聞いている。</p>
会長	<p>ニーズ調査で対象者の数字は押さえているか。</p> <p>人数が少ないのは、デイサービスという名前のイメージがあるのではないか。名前を豊明のように変えたらどうか。</p>
担当課	<p>デイサービスのほかに介護予防事業をいろいろとやっている。それらの事業の中で統合できるものがあればそれも必要だと思う。利用者</p>

委員	<p>の意見を聞いて検討していきたい。</p> <p>食の自立支援事業ということで宅配給食をやっているようだが、会食とかはないのか。月 1 回でも開いたらどうか。</p> <p>名古屋市ではコミュニティセンターで月 1 回、独居老人の会食をやっている。</p> <p>他の福祉事業を拡大してこの宅配事業を吸収する方法もあるのではないか。</p> <p>高齢者福祉の事業でも防犯事業なんかは有用だ。</p> <p>事業は工夫しないとニーズについていけない。</p> <p>年寄り扱いしてはいけない。事業の看板を変えるとか総合的にも工夫が必要。</p>
担当課	<p>市では、介護予防事業として、あったか昼食会というのを月 1 回やっている。体操をして創作活動もする。参加者は 6 か月 1 クールにしているのが人が代わるということはある。</p>
委員	<p>宅配給食サービスは休日にも要望があれば実施できないか。</p> <p>そうすれば、休日でも安否確認ができる。</p>
担当課	<p>休日の対応は課題だ。平成 26 年度以降で検討していく。</p>
委員	<p>高齢者福祉事業全体でみても利用者が少ない事業がある。</p> <p>本当に必要な事業を選定して住民の満足度を満たして欲しい。</p>
委員	<p>利用者が何故 3 人なのかをもう一度立ち返って考えて欲しい。</p>
委員	<p>市で 60 歳以下の人が孤立死している。1 人だったから食事もできなかったのではないか。こういう人に食事サービスはできないか。高齢者でないと駄目なのか。</p>
担当課	<p>60 歳以下の宅配給食サービスは今はない。65 歳以上が対象。現実に 50 代で孤立死は起きているし、50 代での自殺者や生活困窮者も多い。</p> <p>しかし、今は 65 歳以上の独居と 75 歳以上の夫婦のみの世帯に課題が最も多いことからこういう対象としている。</p> <p>どのような方法でサービスが必要な人から S O S をキャッチするかは課題だ。</p> <p>行政が 100% 対処はできない。地域の見守りなどの拡充ということ</p>

会長（総括）

も考えている。

デイサービスという名称と中身を考える必要がある。どうサービスを提供していくか、名称はこれでいいのかということ。

例えば、高齢者が生涯学習事業として何かを子供たちに伝えていくことが、高齢者の喜び、自立につながることもあると思う。

このデイサービスは、メニューを豊富にして名称を代えたらどうか。一度検討してみて欲しい。